

2011年度 第2四半期決算説明資料

2011年8月1日

サッポロホールディングス株式会社

URL <http://www.sapporoholdings.jp>

1. 2011年度第2四半期決算概況
2. 各事業の状況
3. 成長戦略と今後の方針
4. 2011年通期の見通し

※本資料に記載の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

1. 2011年度第2四半期決算概況



SAPPORO

2011年度第2四半期決算概況 - 連結 -

売上高は、国内酒類事業・外食事業において、東日本大震災による影響も受け減収する一方で、飲料事業の増収に加え、ポッカグループ損益項目の連結開始に伴い大幅な増収。

営業利益は、全セグメントでのコスト削減に加え、ポッカグループ・不動産事業が増益に寄与。

特別損失に、資産除去債務による損失10億円、災害による損失46億円の計上もあり、四半期純利益は22億減少。

単位: 億円

	※3/29に(株)ポッカコーポレーションの株式追加取得 第2四半期より損益項目を連結開始		前期比	
	2010年度	2011年度	増減額	増減率
連結売上高	1,771	1,944	172	9.8%
連結営業利益	12	30	17	149.2%
連結経常利益	4	20	15	375.1%
連結四半期純利益	-6	-29	-22	—



SAPPORO

2011年度第2四半期決算概況 営業利益 –セグメント別–

震災による影響を受けた外食事業、ベトナム先行投資費用4億円があった国際酒類事業を除き、各事業とも対前期比にて増益を達成。全セグメントにてコスト削減を実施したことに加え、ポッカグループ・不動産事業が、増益に寄与。

営業利益

	2010年度	2011年度	前期比	
			増減額	増減率
国内酒類事業	-1	0	2	—
国際酒類事業	-1	-2	-1	—
（北米他）	(-0)	(2)	(2)	—
（ベトナム）	(-1)	(-4)	(-3)	—
飲料事業	4	5	1	27.1%
ポッカグループ	—	7	7	—
外食事業	-4	-6	-2	—
不動産事業	35	42	7	21.1%
その他事業	-4	-3	0	—
全社	-16	-13	2	—
連結営業利益	12	30	17	149.2%

単位: 億円

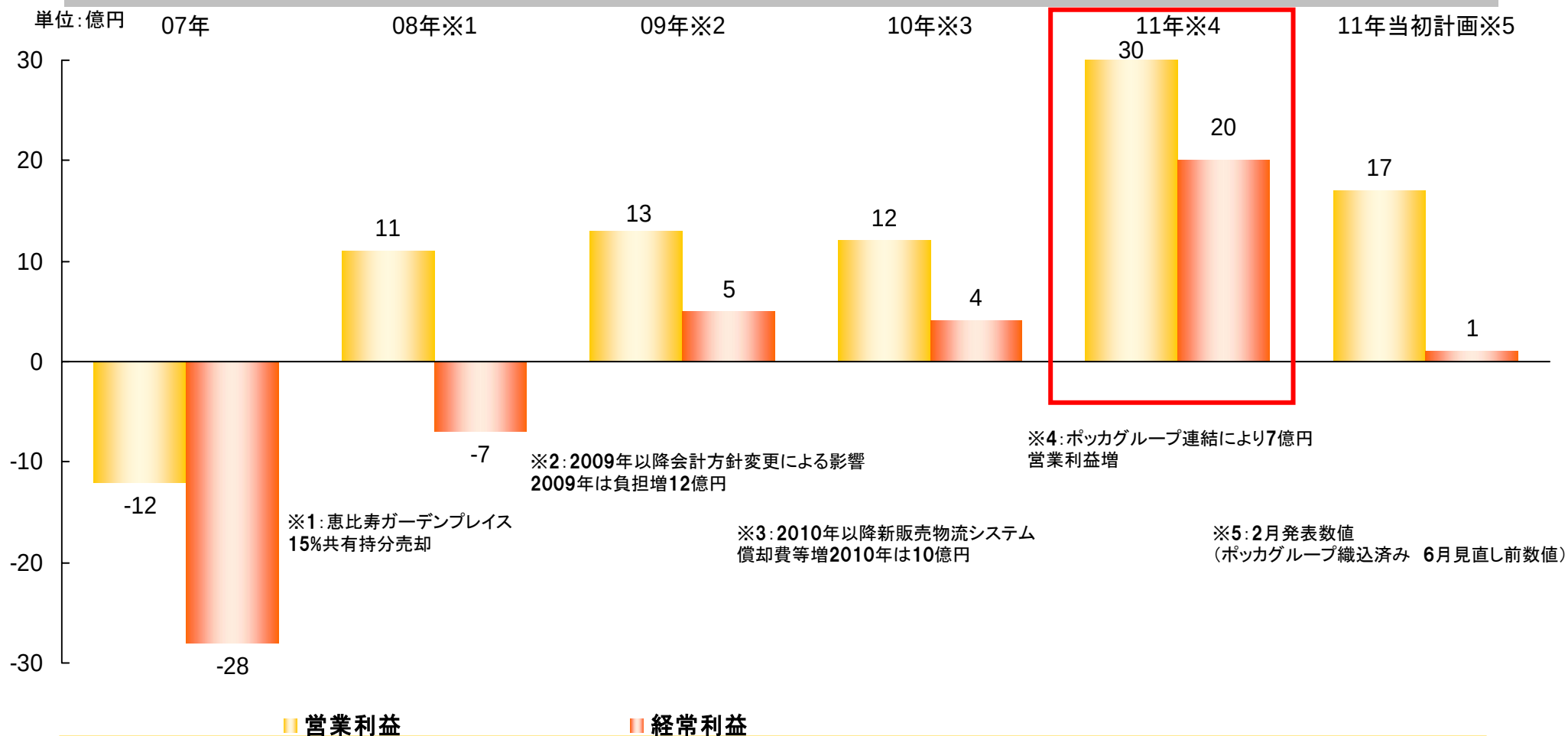


SAPPORO

2011年度第2四半期決算概況 -推移-

営業利益・経常利益ともに大幅な増益。第2四半期での営業黒字を4期連続で達成し、増益基調継続。

営業利益、経常利益の推移





SAPPORO

2011年度第2四半期決算概況－震災に伴う影響－

東日本大震災に伴う第2四半期累計 特別損失計上額
46億円主な内訳

- 固定資産の除却・棚卸資産の減失
 - 9億円
- 災害資産の原状復旧費用
 - 20億円
- 操業・営業休止期間の固定費
 - 15億円
- その他震災に関する費用
 - 2億円

※参考
東日本大震災に伴う通期 特別損失計上額 見込み
50億円主な内訳

- 固定資産の除却・棚卸資産の減失
 - 12億円
- 災害資産の原状復旧費用
 - 20億円
- 操業・営業休止期間の固定費
 - 14億円
- その他震災に関する費用
 - 4億円

主な生産設備の被災状況及び復旧状況

<復旧状況>

➤ サッポロビール(株)千葉工場

- 3/28よりパッケージライン順次再開
- 4/25に全工程で操業再開

➤ サッポロビール(株)仙台工場

- 5/2よりパッケージライン順次再開
- 5/19に全工程で操業再開

節電対応も含め、最盛期のビール類の商品供給体制は、
増産も含め問題なく対処可能。

2. 各事業の状況

※各事業の採算状況につきましては、＜補足説明資料＞もご参照ください



SAPPORO

第2四半期 国内酒類事業(1)

業績ハイライト

東日本大震災の影響により売上高減少。
設備費をはじめとするコスト削減もあり、
営業利益は、2億円の改善。

事業計画のポイント:取組状況

1. 主力商品への経営資源集中によるブランド力強化

- 「エビスビール」「サッポロ生ビール黒ラベル」「麦とホップ」に経営資源を集中しブランド力を強化
- 昨年同様、新商品発売をせず、主力3ブランドへ集中した結果、4月以降、主力ブランド売上数量は、好調に推移したが、震災の影響もあり、当社の第2四半期累計の販売数量は総需要の前年同期比に対して下回った
- 第2四半期の主力ブランド売上数量推移は、次ページ



単位:億円

	2010年度	2011年度	前期比	
			増減額	増減率
売上高	1,259	1,182	-77	-6.2%
営業利益	-1	0	2	—

2. 拡大分野での成長の布石

ノンアルコールビールテイスト飲料への取り組み

- 3/16 <プレミアムアルコールフリー>新発売
 - 震災直後で、殆どの販売促進策を自粛したにもかかわらず、当初より計画を上回り、**年初計画2倍の120万函へ上方修正**
 - 7月に60万函突破



低アルコール飲料への取り組み

- 2月<サッポロ ネクターカクテルクリーミーピーチ>数量限定発売
- 4月<サッポロ ネクターサワースパークリングピーチ>リニューアル
- 3/23発売予定が震災の影響で延期となった<トライアングル ジンジャーハイボール>缶 5/11に発売





SAPPORO

第2四半期 国内酒類事業(2)

事業計画のポイント:取組状況

第2四半期発表 拡大分野での成長の布石

3. 経営基盤強化の取組

コスト構造改革の取組

- 経営主導のプロジェクト推進によりコスト構造改革において、2011年から2013年にて、30億円の削減を目標に取り組み中
- 震災の影響もあるため、コスト削減目標は前倒しで取組み



- 韓国最大の食品メーカーCJ(チェイルジェダン)社と販売委託契約締結
＜CJボンガ(本家)・マッコリ＞を7/13より業務用市場にて発売決定
・今期の業績には含まず

- 世界NO. 1ラムブランド等をバカルディジャパン社と業務提携契約締結
下記の主要ブランド等を10/1より発売決定

- ・29ブランド90アイテムを販売
- ・洋酒ブランドを拡大し、ワイン・焼酎などと並ぶ収益の柱へ
- ・2016年洋酒売上高目標 100億円
- ・今期の業績には含まず

東日本大震災の影響と復旧状況

- 仙台工場 千葉工場 操業停止
・5/19仙台・4/25千葉 両工場ともに全工程で操業再開
- 供給力不足に伴う当社品ブランドの絞込み
・主力の＜黒ラベル＞＜エビスビール＞＜麦とホップ＞の供給を最優先
・休売商品は、8/1現在で再開済み
- 第2四半期累計＜災害による損失＞計上:42億円
固定資産、棚卸資産減失・営業休止期間中の固定費等
※通期予想は46億円

バカルディ



販売量・販売金額
世界No. 1
ラムブランド

ボンベイ・サファイア



販売金額
世界No. 1
ジンブランド

グレイ Goose



販売量・販売金額
世界No. 1
スーパープレミアム
ウォッカブランド

マルティーニ



販売量・販売金額
世界No. 1
イタリアンスパークリング
ワインブランド

デュワーズ



販売量・販売金額
アメリカNo. 1
スコッチウイスキー
ブランド



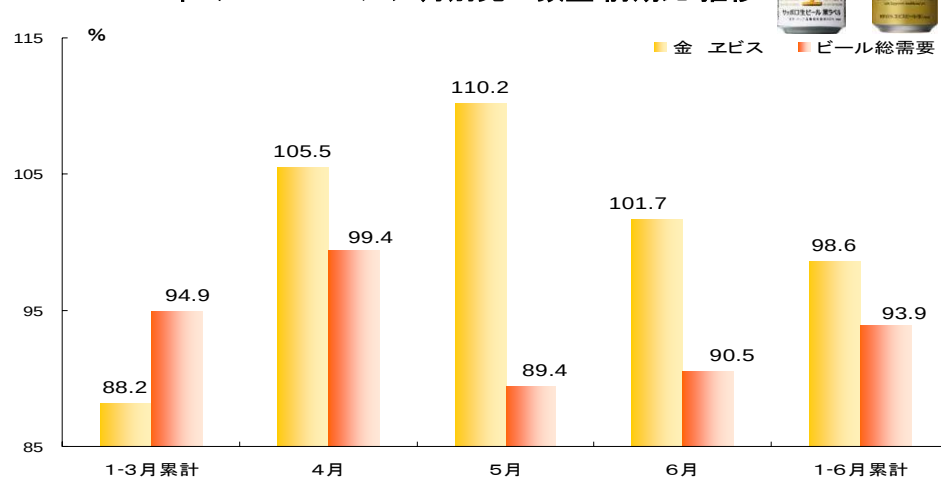
SAPPORO

第2四半期 国内酒類事業(3)

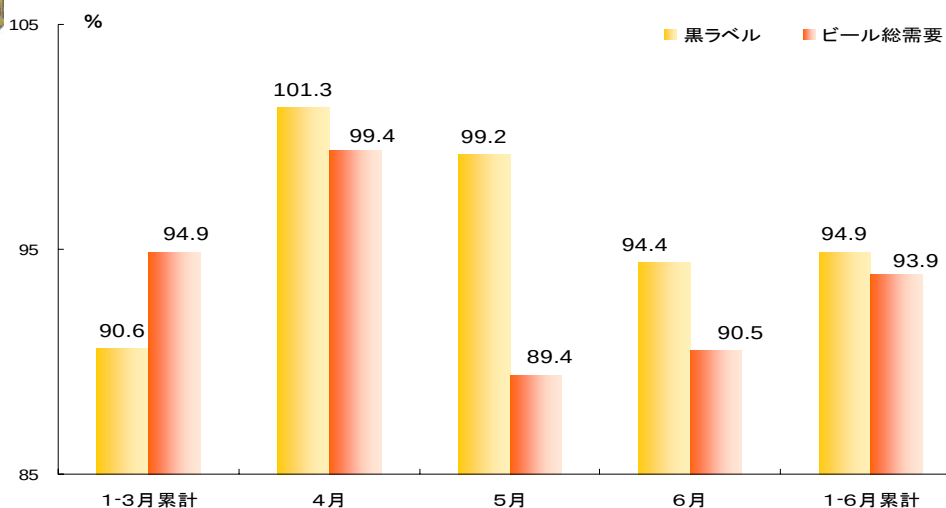
主力の「エビスビール」「黒ラベル」「麦とホップ」は、売上数量前年同期比は4月以降、総需要を上回る水準で推移したものの、震災の影響によってブランドの絞込みを余儀なくされたため、「ビール・発泡酒・新ジャンル合計」では、1-6月も累計総需要 前年同期比を下回った。



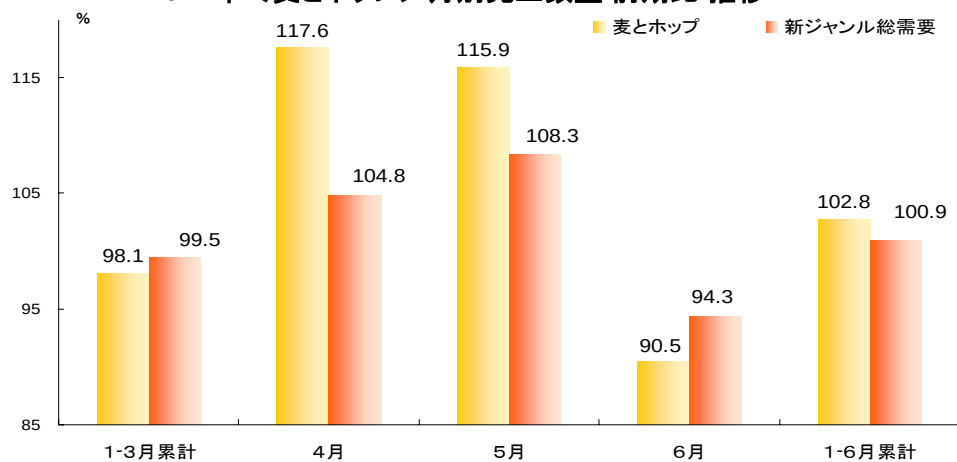
2011年<エビスビール>月別売上数量 前期比 推移



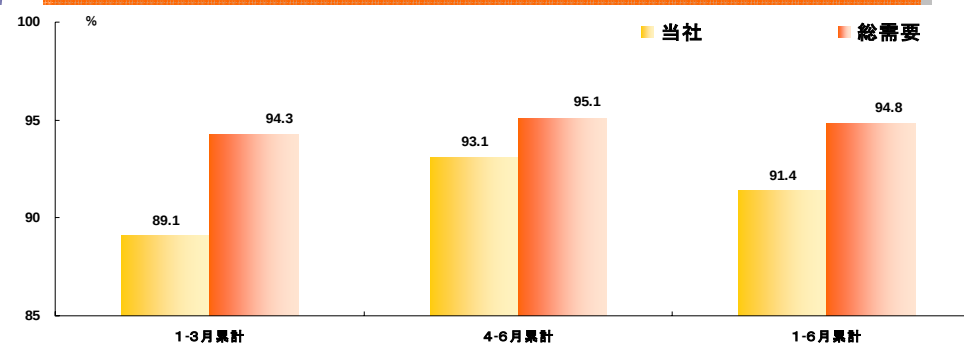
2011年<黒ラベル>月別売上数量 前期比 推移



2011年<麦とホップ>月別売上数量 前期比 推移



ビール・発泡酒・新ジャンル合計





SAPPORO

第2四半期 国際酒類事業(1)

業績ハイライト

北米事業を中心に現地通貨建では伸張したものの、円高による目減りで売上高は前期並みにとどまった。

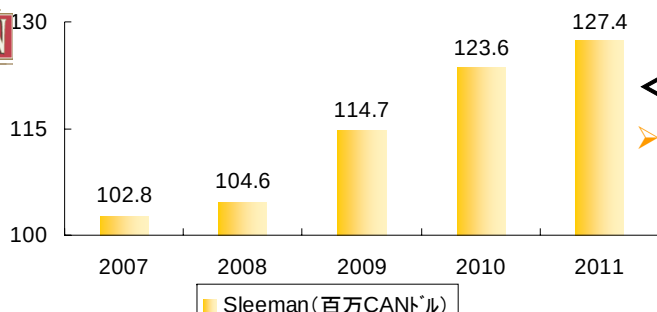
営業利益は、ベトナムでの先行投資費用4億円もあり1億円の減益。

事業計画のポイント:取組状況

単位:億円

	2010年度	2011年度	前期比	
			増減額	増減率
売上高	124	124	-0	-0.3%
営業利益	-1	-2	-1	—
(北米他)	(-0)	(2)	(2)	—
(ベトナム)	(-1)	(-4)	(-3)	—

1. 北米での事業成長 現地通貨売上高の推移(1-6月)

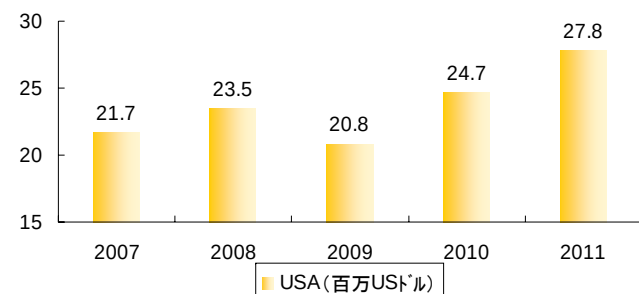


<スリーマン(カナダ)>

- ▶ プレミアムブランドへのマーケティング投資強化による売上の伸長
- ・ カナダ総需要前期比を上回るパフォーマンス

(1-6月) 5期連続で前期を上回る売上数量!

売上数量前年比	10年	11年
Sleemanブランド	106%	105%
カナダ総需要	99%	97%



<サッポロUSA(米国)>

- ▶ 日系市場ベースに米国一般市場、米国アジア系市場への拡大
- ・ 米国アジア系市場では、前年比30%以上増

(1-6月) 2010年に続き2011年も、米国輸入総需要を上回るパフォーマンス!

売上数量前年比	10年	11年
USA社	120%	109%
米国輸入ビール総需要	96%	108%



SAPPORO

第2四半期 国際酒類事業(2)

事業計画のポイント:取組状況

2. アジア市場(含むオセアニア)での展開

<ベトナムでの事業展開>

- **2011年秋稼動**に向けて工場の建設は順調に進捗
- 年内のビール現地製造、販売に向け、生産体制
マーケティング戦略・流通網を構築中

<シンガポールでの事業展開>

- ポッカとの連携にて家庭用市場で輸出ビールの販路拡大
(シンガポールにて茶系飲料シェアトップ)
- 当社輸出ビール前年比10%増



<ベトナム 工場建設 現況 6/29現在>



<韓国での事業展開>

- 提携したメイル乳業社との連携にて家庭用及び
業務用市場へ輸出ビール販売開始
(メイル乳業社 チーズ・低脂肪乳・チルド珈琲等 韓国シェアトップ)

<オセアニアでの事業展開>

- ライセンス契約したクーパーズ社を通じて10月より
オーストラリア・ニュージーランドのプレミアム市場
に本格参入 今期の業績には含まず
(クーパーズ社 オーストラリア市場にてシェア3位
オーストラリアプレミアム市場シェア17.3%で2位)





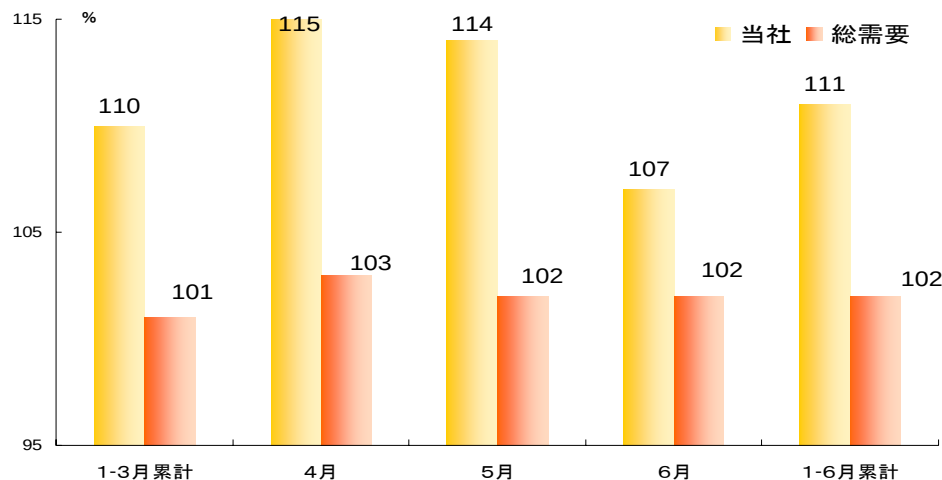
SAPPORO

第2四半期 飲料事業

業績ハイライト

1～6月累計で震災の影響等により、国内市場が伸び悩む中、当社は、対前期比大幅な売上数量増加。

2011年＜飲料事業＞月別売上数量 前年比 推移



事業計画のポイント:取組状況

<ブランドの強化・育成>

➤ 基軸ブランドへのマーケティング投資と営業力の集中

- ・「Ribbon」 前年同期比 **100%**
- ・「がぶ飲み」 前年同期比 **103%**
- ・「ゲロルシュタイナー」 前年同期比 **117%**

➤ 新価値商品の創出

- ・「おいしい炭酸水」「素のままづくり」



単位:億円

	2010年度	2011年度	前期比	
			増減額	増減率
売上高	145	176	30	21.1%
営業利益 (のれん償却前 営業利益)	4 (4)	5 (7)	1 (3)	27.1% (92.3%)

※本年より＜食品事業＞のセグメント区分は、＜飲料事業＞より＜その他＞に変更

東日本大震災の影響と復旧状況

➤ 第2四半期累計＜災害による損失＞計上:1.0億円

棚卸資産滅失・資産撤去費用・営業休止期間中の固定費等

※通期予想は0.9億円

➤ 供給力不足に伴う当社品ブランドの絞込み及び新商品 発売延期

・順次再開の予定

➤ ミネラルウォーターや無糖系飲料の需要拡大

協同乳業社とのシナジー創出

➤ 初のコラボレート商品「朝食フルーツ」発売(4月)

- ・“リボンちゃんパッケージ” 震災の影響で3月より発売延期





SAPPORO

第2四半期 ポッカグループ(1) 新規連結

業績ハイライト

新規連結のため前期比較は出来ないが、下記参考数値で比較すると、売上高は、シンガポールの旧正月前の需要期ずれもあり、飲料水・食品(海外)が減収したが、飲料水・食品(国内)でレモン飲料の伸長による増収もあり4億円の増収。(ポッカ・シンガポール1月決算につき、2-4月を連結。旧正月前の需要は、本年は1月、前年は2月に売上計上。)

参考: 4-6月セグメント別売上高 前期対比(グループ間取引消去前)

※2011年4-6月のグループ間取引消去額は6億円。

	単位: 億円		前期比	
	2010年度	2011年度	増減額	増減率
飲料水食品(国内)	181	186	4	2.7%
飲料水食品(海外)	27	24	-3	-11.9%
外食(国内)	13	14	0	6.6%
外食(海外)	10	11	1	10.5%
その他事業	22	23	1	5.0%
ポッカ全社	-13	-14	-0	—
合計	242	※246	4	1.7%

単位: 億円

前期比

2010年度

2011年度

増減額

増減率

売上高

—

240

240

—

営業利益
(のれん償却前
営業利益)—
(—)7
(10)7
(10)—
—

※第2四半期以降、損益の項目を連結開始。2011年は4-6月。

単位: 億円

前期比

増減額

増減率

飲料水食品(国内)

181

186

4

2.7%

飲料水食品(海外)

27

24

-3

-11.9%

外食(国内)

13

14

0

6.6%

外食(海外)

10

11

1

10.5%

その他事業

22

23

1

5.0%

ポッカ全社

-13

-14

-0

—

合計

242

※246

4

1.7%



SAPPORO

第2四半期 ポッカグループ(2) 新規連結

事業計画のポイント:取組状況

飲料水及び食品事業(国内):(株)ポッカコーポレーション

飲料水及び食品事業(国内):自販機オペレータ 計6社

1. 飲料事業

- 中核ブランドへの集中投資
「キレートレモン」
 - ・発売10周年販促施策の実施
 - ・新製品「キレートレモン爽快スパークリング」の投入
- コーヒー「プロモーション缶」の投入と好調な推移



「ドラゴンボール」のプロモーション缶



2. 食品事業

- 育成ブランドへの集中投資
 - ・韓国スープ「韓湯美味」のTVCM投下
- 「ポッカレモン100」
 - ・朝の利用シーンを訴求



3. コスト削減への取り組み

- 競争購買等による原価削減、固定費の削減



東日本大震災の影響(2011. 4~6月期)と復旧状況

・群馬工場の自動倉庫被災

2011. 4~6月期はほぼ震災前の状況に復旧。

➤ 原材料・資材の供給停滞の影響による新製品の発売中止が若干発生

➤ 2011. 4~6月期＜災害による損失＞計上: 0.3億円

棚卸資産減失・その他震災に関連する費用 等 ※通期予想は0.5億円



SAPPORO

第2四半期 ポッカグループ(3) 新規連結

事業計画のポイント:取組状況

飲料水及び食品事業(海外): ポッカコーポレーション・シンガポール

旧正月の期ずれの影響で2月度の市場が冷え込んだ。

3月度以降は持ち直したものの当期(2011.2~4月期)では減収

1. 生産能力の向上

- 自社生産比率を高め、生産効率アップ

2. SCM機能強化

- 配送費、倉庫費の減少
- 在庫圧縮

シンガポールで高いシェアを誇るグリーンティ



外食事業(国内): (株)ポッカクリエイト:

1. 既存店の好調、新規出店計画の進捗で増収

- 店舗数: 158店 (関東103/東海32/関西20/九州3) (2011/7月現在)
- 新規出店計画=年間15店舗 (直営4/FC11)
- 効果的な改装計画でブランドを強化中



2. 収益率向上への施策が奏功し増益

- 原価率の改善
- 不採算店の整理による収益改善

外食事業(海外)ポッカ香港・ポッカフードシンガポール

- ・原発事故の影響により売り上げダウンはあったものの、影響は軽微。特に香港の業績は好調に推移

- 店舗数: 合計38店 (2011/6月現在)
香港 26店、シンガポール 10店、マカオ 1店
- 2011.2~4月期、新規出店
香港「味吉」1店



その他の事業



- ・アイスクリーム事業
「フォーモストブルーシール」(沖縄)



SAPPORO

第2四半期 外食事業

単位: 億円

業績ハイライト

東日本大震災後、個人消費が急激に減速。その後、回復傾向にあるものの、競争環境の激化など依然厳しい経営環境。

第1四半期までの既存店売上前年同期比83.8%から4-6月では、92.3%まで回復したものの、第2四半期累計で88.2%にとどまったこともあり減収・減益。

(3月単月 既存店売上66.5%の影響が大 6月単月は98.7%まで回復)

	2010年度	2011年度	前期比	
			増減額	増減率
売上高	124	105	-19	-15.3%
営業利益	-4	-6	-2	—

事業計画のポイント: 取組状況

1. 成長への取組

<出店戦略>

- 国内酒類事業とのシナジー: <エビスバー> 展開
 - 大阪梅田3号店、東京ドームシティ4号店、神楽坂5号店を出店
- <銀座ライオン> の店舗展開
 - 札幌に小型「ブラッスリー銀座ライオン」出店
- 他3店出店 第2四半期累計 出店合計 7店舗出店
 - いずれの店舗も計画通り好調に推移

2. 収益構造改革

- 第2四半期累計 閉鎖店: 5店舗閉鎖
- 第2四半期末店舗数: 196店舗

東日本大震災の影響と復旧状況

- 休業店舗は1店舗のみ それ以外は営業再開済み
 - ・名取市文化会館(現在も避難所)の店舗を除き営業再開済み
- 第2四半期累計<災害による損失>計上: 0.8億円
棚卸資産減失・原状復旧費用・営業休止期間中の固定費等
※通期予想は0.7億円



第2四半期 不動産事業(1)

単位: 億円

業績ハイライト

首都圏オフィス賃貸市場の賃料水準が、下落傾向が続く中、引き続き安定した収益体質を維持。

事業計画重点ポイント: 取組状況

	2010年度	2011年度	前期比	
			増減額	増減率
売上高	113	110	-2	-2.5%
営業利益	35	42	7	21.1%

1. 保有物件の価値向上

- 適正な賃料水準の実現
- 保有物件の再開発
 - 星和恵比寿ビルの建替えに向けたテナントとの交渉継続
- 高稼働率維持
 - 都心5区オフィス賃貸物件の6月末稼働率91%程度に対して当社都内の主要物件は右記の通り

(6月30日現在)

都内23区主な賃貸物件	敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	稼働率 (%)	階数
恵比寿ガーデンプレイス ⁽¹⁾	56,943	298,007	94%	地下5階付40階建
星和恵比寿ビル	2,617	10,400	83%	地下1階付6階建
恵比寿スクエア	1,561	9,126	84%	地下1階付7階建
渋谷桜丘スクエア	1,200	9,268	100%	地下1階付10階建
サッポロ銀座ビル	530	4,232	96%	地下4階付10階建
ストラータ銀座 ⁽²⁾	1,117	11,411	100%	地下1階付13階建

敷地面積は<公募面積>、延床面積は<建築確認面積>で記載

稼働率は、1～6月<期中平均>にて記載

2. 成長への取組

- 新規物件取得
 - 2月賃貸住宅<ストーリーア白金台>取得

(1): 100%持分にて記載。当社持分は85%(共有持分)。「階数」はオフィス棟部分のみ、「稼働率」は、オフィス区画にて記載

(2): 100%持分にて記載。当社持分は、土地922㎡(区分所有)、建物89.72%(共有持分)

不動産事業における所在地等の詳細については下記リンクをご参照下さい
(<http://www.yebisu-gp.jp/business/index.html>)



SAPPORO

第2四半期 不動産事業(2)

当社不動産事業の概要

- 当社の不動産事業においては、営業利益の大半が不動産賃貸事業からの収益
 - － 不動産賃貸事業の対象資産は、概ね都心5区の物件により構成(前頁参照)
- 成長への取り組みとして、新規物件の取得を実施
- 再開発による既存物件のバリューアップも検討

営業利益

単位: 億円

	10年 1-6月	11年 1-6月	増減	10年 通期	11年通期 修正予想	増減
不動産賃貸事業						
都内23区	31	36	5	67	71	4
その他地区	4	4	-0	8	8	-0
不動産賃貸事業 合計	35	40	5	75	79	3
不動産販売	0	4	3	5	4	-1
その他事業※	-1	-2	-1	-1	-3	-2
合計	35	42	7	80	80	0

※「その他事業」には、間接部門が含まれます

東日本大震災の影響と復旧状況

- 一時的な保有物件・施設一部使用制限<計画停電等の影響
 ・**通常営業再開済み**
- 第2四半期<災害による損失>計上: 1.1億円
 設備修繕・営業休止期間中の固定費等
 ※通期予想は1億円

EBITDA

単位: 億円

	10年 1-6月	11年 1-6月	増減	10年 通期	11年通期 修正予想	増減
不動産賃貸事業						
都内23区	57	53	-3	114	105	-9
その他地区	7	7	0	15	15	0
不動産賃貸事業合 計	64	61	-3	129	120	-9
不動産販売	0	4	3	5	4	-1
その他事業※	0	-0	-1	1	-0	-2
合計	66	64	-1	136	124	-12

EBITDAは、「営業利益+減価償却費」にて算出

※「その他事業」には、間接部門が含まれます

3. 成長戦略と今後の方針



SAPPORO

成長戦略と今後の方針

戦略投資実績 第2四半期

<(株)ポッカコーポレーションとの経営統合に伴う追加株式取得>

- 3月29日に65.35%の株式を追加取得 連結子会社化
(取得後86.76%保有)
- 追加取得に伴う投資は、取得原価224億円+NET金融負債82億円で
投資額合計は306億円
- 4月以降も株式を10.03%追加取得 取得原価46億円
(取得後96.79%保有 6/30現在)
- 投資合計は352億円(第2四半期投資合計額※21.41%取得投資額除く)

<サッポロ飲料(株)のCB買取に伴う株式取得>

- 4月28日にクレセントパートナーズ所有の発行済みCBを株式転換後に買取
- 取得に伴う投資は、買取価額108億円-株式発行価額38億円で
投資額合計は71億円

<設備投資(支払ベース)>連結合計で73億円

- 内訳: 国内酒類15億円・国際酒類21億円・不動産29億円 等

<その他投資>連結合計で9億円

- 内訳: 国内酒類 等

<第2四半期 戦略投資実績 合計(経常設備投資含む)>

- 505億円

長期戦略投資の方向性

- 2016年目標の経営指標D/Eレシオ1倍程度を念頭においた上の投資計画とする
- 引き続き、成長を目指し、積極的に成長戦略投資を実施
- 2011年戦略投資額は、当初計画の635億円から644億円へ修正
- 2012年から2016年の戦略投資規模としては、1,500億円~2,000億円を想定
 - 経常設備投資(戦略投資規模の約半分)を含む
- 上記の目標の経営指標を超えるような投資が成長戦略上必要となった場合、保有不動産の一部の流動化も検討

4. 2011年度通期見通し

※通期見通しにつきましては、6/30発表の＜連結通期業績予想 説明資料＞もご参照ください



SAPPORO

2011年度通期業績予想(対当初計画)-連結-

国内酒類事業・外食事業において、東日本大震災による影響もあり、当初計画より減収と予想。

営業利益は、飲料事業・ポッカグループの増益に加え、国内酒類事業でのコストコントロールを見込み、当初計画より変更なし。

特別損失に災害による損失50億円を見込んだこともあり、当期純利益は当初計画より33億円の減少と予想。

単位: 億円

※3/29に(株)ポッカコーポレーションの株式追加取得
第2四半期以降、損益の項目を連結

	2011年度 当初計画	2011年度 修正予想	当初計画比	
			増減額	増減率
連結売上高	4,820	4,620	-200	-4.1%
連結営業利益	180	180	0	0.0%
連結経常利益	155	155	0	0.0%
連結当期純利益	60	27	-33	-55.0%



SAPPORO

2011年度通期業績予想(対当初計画) 営業利益 -セグメント別-

外食事業・不動産事業の減益を見込んだものの、飲料事業・ポッカグループにおいて増益を見込み、営業利益連結合計では、当初計画より変更なし。震災に伴う操業・営業休止期間中の固定費の特別損失への振替は国内酒類事業の12億円等で連結合計で14億円と予想。

営業利益

	2011年度 当初計画	2011年度 修正予想	当初計画比	
			増減額	増減率
国内酒類事業	98	98	0	0.0%
国際酒類事業	1	1	0	0.0%
(北米他)	14	14	0	0.0%
(ベトナム)	-13	-13	0	0.0%
飲料事業	7	10	3	42.9%
ポッカグループ	23	25	2	8.7%
外食事業	4	0	-4	-100.0%
不動産事業	83	80	-3	-3.6%
その他事業	-4	-4	0	—
全社	-32	-30	2	—
連結営業利益	180	180	0	0.0%

単位: 億円



SAPPORO

2011年度通期業績予想(対前期)-連結-

売上高は、国内酒類事業・外食事業の東日本大震災によるマイナス影響を国際酒類事業・飲料事業の好調と、ポッカグループ連結化により、連結合計で増収と見込んだ。

営業利益は、ポッカグループ新規連結に加え、国内酒類事業の増益も見込み、対前年比25億円の増益、経常利益も5期連続の増益の見通し。

本年は、前年の資産売却による81億円の特別損益の減少に加え、特別損失に資産除去債務による損失10億円、災害による損失50億円等を見込んだこともあり、当期利益は80億円減益の見通し。

単位: 億円

※3/29に(株)ポッカコーポレーションの株式追加取得
第2四半期以降、損益の項目を連結

	2010年度 実績	2011年度 修正予想	前期比	
			増減額	増減率
連結売上高	3,892	4,620	727	18.7%
連結営業利益	154	180	25	16.9%
連結経常利益	143	155	11	8.2%
連結当期純利益	107	27	-80	-74.9%



SAPPORO

2011年度通期業績予想(対前期) 営業利益 -セグメント別-

ポッカグループ新規連結に加え、国際酒類事業の＜ベトナム先行投資費用＞と飲料事業の＜のれん償却6億円＞を除けば、外食事業以外のセグメントは増益の見込。震災に伴う操業・営業休止期間中の固定費の特別損失振替は国内酒類事業の12億円等で連結合計で14億円の見込み。

営業利益

	2010年度 実績	2011年度 修正予想	前期比	
			増減額	増減率
国内酒類事業	92	98	5	6.1%
国際酒類事業 (北米他) (ベトナム)	5	1	-4	-80.1%
	8	14	6	66.1%
	-3	-13	-10	—
飲料事業	12	10	-2	-22.3%
ポッカグループ	—	25	25	—
外食事業	1	0	-1	-100.0%
不動産事業	80	80	0	0.0%
その他事業	-7	-4	3	—
全社	-30	-30	0	—
連結営業利益	154	180	25	16.9%

単位: 億円